

知られざる会計戦争 —狙われる日本の富—

神奈川大学経済学部教授
田中 弘

- *学者と官僚は旗幟不鮮明が身上
- *会計は経営者の金銭感覚を表す
- *国際基準の出でくる背景
- *対アメリカで考えたEU
- *大半はコモンウェルスの国々
- *企業売買のための会計
- *弱気のSECへ「渡りに舟」
- *自国基準の国際化めざす米国
- *連結は投資の勧誘情報
- *事実上の「任意適用」へ



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日はおなじみ、神奈川大学の田中弘先生に
おいでいただきました。前回は「国際会計基準
はどこへ行くのか——暴走する米英、勇み足の
日本」でしたが、まさにこのとおりの展開にな
り、その後、ようやく昨年途中から流れが変わ
ってきて、アメリカでもだいたいぶ状況が変わっ
てきています。日本もIFRSアイエフアールエス（国際会計基準）
でこのままいってもダメだという話になってき
ました。

この3月に「IFRSはこうなる」という本
を東洋経済から出していただきましたが、今日
の講師のお話が面白かったらで結構なのでど
ぞお買い求めください。（笑）会計学なんか専
門的すぎてわからない、面白くないという方が

多いですけども、この本は非常にわかりやす
い、いい本です。会計学はものすごく大事で、
会計がしっかりしないと日本の国益は大きく損
われるのではないかと私は思っています。それ
がどうやら損なわずに済みそうな気配が出てき
たのでちょっと喜んでるところですが、今日
はこの問題の第一人者である田中さんによるし
くお願いしたいと思います。（拍手）

田中 皆さんこんにちは。「また田中か」と
言われそうですが（笑）この経済倶楽部でお話
しする機会は今回で5回目です。ありがたいの
ですが、ほかに会計学者はいないのかなと思っ
たりしております。またご指名いただきました
本当にありがとうございます。

自分ではあまり会計学者だという意識が強く